

2008年（平成20年）

ハタハタ情報 No.1

平成20年10月10日発行

北海道立中央水産試験場 資源管理部 管理技術科 Tel : 0135-23-8707

Fax:0135-23-8709

インターネットからご覧いただけます

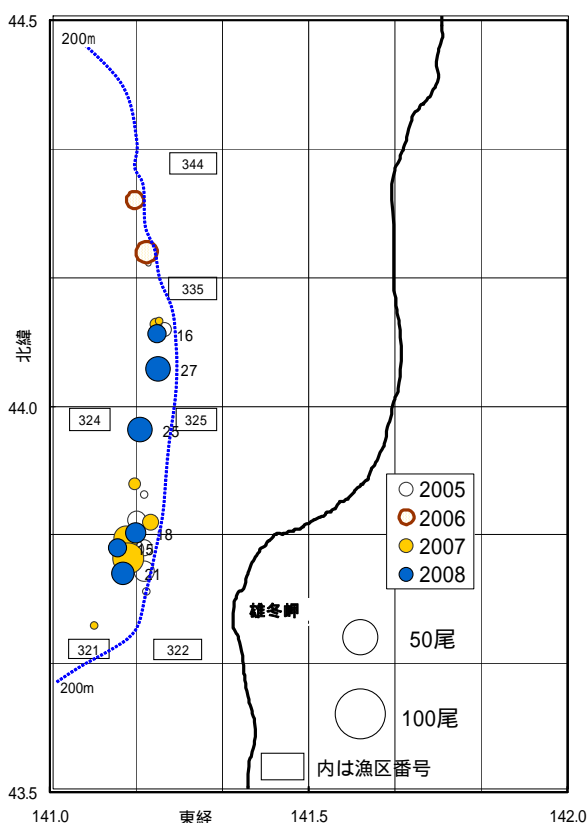
<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/central/kanri/NEWS/HATAHATA/jyouhou1.pdf>

中央水試調査船おやしお丸によるハタハタトロール調査の結果を報告します。

【調査期間】 2008年9月29日～10月1日

【調査海域】 雄冬岬沖から天売島沖（主な漁区は321,324,325,335）水深227～259mの海域にて調査を実施しました。 6調査点分の調査結果を報告します。

**1マイル曳網当たり11.2尾であり、分布の状態は広い範囲に分散。
魚体サイズは雌雄とも大きく、2歳魚が主体で1歳魚は1割程度。
成熟状態から、沿岸への来遊時期は例年（11月上旬）より遅めか。**



1. ハタハタの分布状況（図1）

上記調査期間中に、留萌沖から雄冬岬沖にかけて6回のトロール調査を実施しました。

各地点での入網尾数は、7～27尾でした。

1マイル曳網当たりの入網尾数は17.3尾でした。

1マイル曳網当たりの平均入網尾数（6調査地点分）は、11.2尾/1マイルでした。昨年（2007年）は8地点での調査で8.5尾/1マイルでした。

また、調査を実施した調査点全てでハタハタの入網が見られたことから、この海域では広い範囲に分散している可能性があると思われました。

図1 おやしお丸で採取されたハタハタの尾数（2004年～2008年9月下旬～10月上旬結果）

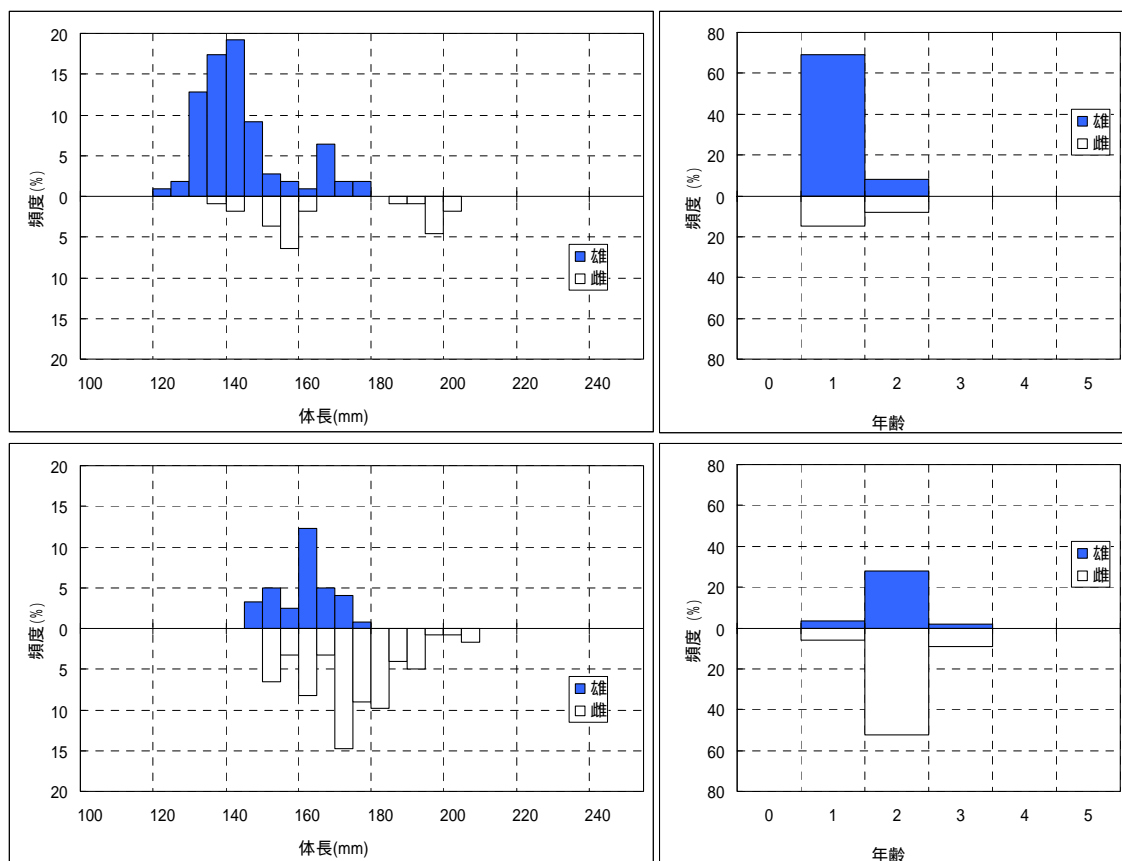


図2 おやしお丸の調査で採取されたハタハタの体長と年齢（上：2007年、下：2008年）

2. ハタハタの魚体サイズ（図2）

今年（2008年）採取されたハタハタの体長は、昨年（2007年）よりも大きく、モード（最も多く漁獲された体長サイズ）は雄で160mm台（昨年は140mm台）、雌のモードは170mm台（昨年は155mm台）にあり、雄雌とも15～20mm大きい値でした。

年齢を尾数組成（%）でみると、今年は1歳魚が10%、2歳魚以上は90%でした。ほぼ1歳魚の比率が高かった昨年（1歳：83%）と異なり、1歳魚が少なく、2歳魚が多い結果となりました。

3. 成熟状態（図3）

ハタハタは成熟状態（生殖巣の発達状態）が進むにつれ、南下し沿岸にて産卵することが知られています。成熟状態は生殖腺重量（GSI：卵巣重量(g) ÷ 内臓除去重量(g) × 100）を観察することで判断します。おおよそGSIが40前後になると沿岸に産卵回遊します。おやしお丸で採取された雌2歳のGSIの値（図中の ）を見ると、近年では比較的低い値であることから、沿岸への来遊は例年（11月上旬）より遅くなると思われます。

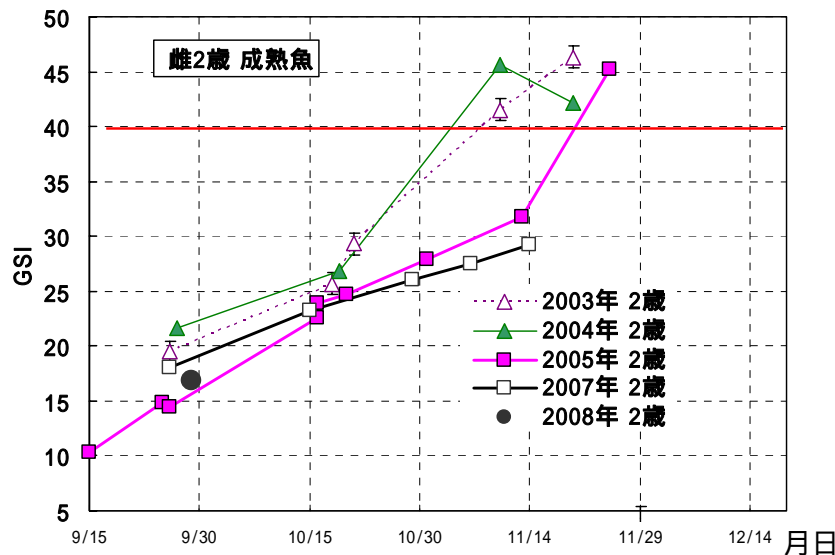


図3 雌2歳のGSIの推移（2004年～2008年）

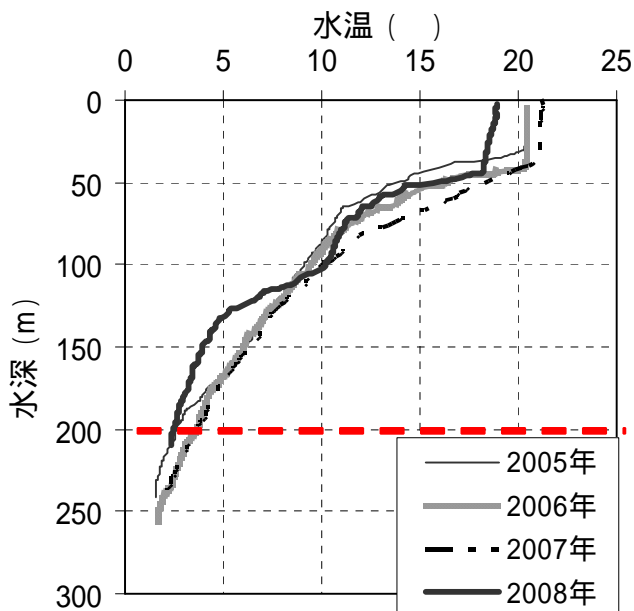


図4 321漁区9月の水深別水温の年別変化

4. 水温（図4-1、表）

321漁区の深度200mの水温は2.5であり、例年（2.5前後）と同じくらいでした（図4）。今回調査を実施した海域別（漁区別）に、底層の水温を見ると、最も北側の漁区である335漁区（2.8）以外の漁区では2.0前後でした（表）。

表 底層水温

海区	321	324	325	335
測定水深	210	237	251	181
水温	2.3	1.9	2.0	2.8

5. まとめ

- ・曳網1マイル当たりの採取尾数は11.2尾でした。また、分布の状態は広い範囲に分散。
- ・魚体のサイズは、雌雄ともに昨年よりも大きく、昨年は1歳魚中心でしたが、今年は2歳魚が中心でした。成熟状態は、例年より遅れていると思われます。
- ・水温は例年と同様の傾向にありました。
- ・次回の調査は10月22日～10月30日に予定しています。